

# 英語学習へいざなう企画

—ハンドアウト：「語学(英語)を学ぶ力とは」—

堀江 研二

## 1. はじめに

年度始めや各学期始めの授業は、英語学習への導入として大きな比重をもっています。年度始めの授業で、教師が話す・説明する内容は、「自己紹介」「英語学習法」「年間計画」「教科書の説明」「ノートの使い方」「評価の仕方」などです。もちろん、それらは生徒の学習指針にはなっています。しかしながら、初回から「生徒の興味・関心をかき立てる授業」そして「英語学習で迷ったときに戻れる道順を示すことに重点を置いた授業」ができないかとずっと考えていました。そして、ここ数年は、次のような4つの項目からできている「ゲーム・パズルを中心としたハンドアウト」を使って最初の授業を実施しています。

## 2. 授業展開

実際に使用しているハンドアウト例について、授業中のエピソードを添えて授業展開を示していきます。

ハンドアウトタイトル：「語学(英語)を学ぶ力とは」

### (1) 語彙(単語、熟語)～ Vocabulary (Words & Idioms)

～How many English words do you know?～

Q.1 次の下線部に適切なアルファベットを入れて単語を完成させなさい。なお、各問の下線部に入るアルファベットは同一である。(★は生徒が興味を示した問、※は授業で示したヒントを表している。)

- ① b \_ \_
- ② \_ a \_ \_ al ★
- ③ \_ \_ l ※ a kind of fish ...
- ④ \_ a \_

- ⑤ \_ eve \_
- ⑥ \_ \_ l \_ ng ★
- ⑦ r \_ yt \_ m
- ⑧ pu \_ \_ ing
- ⑨ a \_ \_ e \_ \_
- ⑩ \_ u \_ \_ ( \_ u \_ \_ abyとして出題も可)

- A: ① bee, baa, boo    ② mammal    ③ eel  
 ④ dad, gag    ⑤ level    ⑥ oolong  
 ⑦ rhythm    ⑧ pudding, putting  
 ⑨ assess    ⑩ lull, lullaby

[授業余録]

- ・④⑤は左右どちらから読んでも同じ単語、いわゆる「回文」である。「他に、このような単語はありますか」と生徒に尋ねる。
- ・英語のスプリングには、'zzz'「グーゲー」のような擬音語を除き、「a, i, u, e, o, y」のいずれかが必ず入っていることを教える。また、このときにアクセントの位置についても話す。特に、yにもアクセントがつくことがあると教える。(例 tȳpical, rĥȳthm)
- ・生徒から答えが出ないときは、答えが出るまで英語でヒントを少しずつ言っていく。不思議と生徒が授業に必ずのってきて、だんだん答えるようになる。また、生徒に追加の問題を求められることもある。

Q.2 次のアルファベットで始まる単語を2分間でできる限り書きなさい。(このQ.2では指定の語数(5語か10語)を書けた生徒から手を挙げさせ、順位を競わせることもある。)

→この活動は以下のように3回に分けて行う。

- ①「少し考えると単語が出てくるアルファベット」
- ②「どんどん単語が出てくるアルファベット」

(例 t, s)」

③「5語書くのがやっとのアルファベット

(例 q, z)」

〔授業余録〕

- ・②で、tから始まる語を書かせた後に「中学校で多く出てくるのは、t, s, bなどから始まる単語ですよ!」と言う。実際に、two, to, too, the, this, that, these, those ...と板書していくと、生徒は必ず興味を示す。
- ・応用編として '\_ a \_ e' のスペリングになる単語、'\_ oo \_' のスペリングになる単語など( \_ に来るアルファベットは不問)を書かせる。答え合わせをして、bake, cake, date, ease, face, gaze ... ; book, cool, door, food, pool, wood ...と板書すると、tから始まる語を板書したときと同様に、生徒は興味を示す。

**Q. 3** 次の略語を省略しないスペリングに直しなさい。

(例)WHO(世界保健機関): World Health Organization

- ① in 399 B.C. (紀元前 399 年に):  
in 399 (B     ) (C     )
- ② LED(発光ダイオード):  
(L     ) (E     ) (D     )
- ③ NPO(民間非営利団体):  
(N     )-(P     ) (O     )
- ④ NGO(非政府組織):  
(N     )-(G     ) (O     )
- ⑤ GDP(国内総生産):  
(G     ) (D     ) (P     )
- ⑥ UFO(未確認飛行物体):  
(U     ) (F     ) (O     )
- ⑦ PC(パソコン): (P     ) (C     )
- ⑧ ATM(現金自動預入払出機):  
(A     ) (T     ) (M     )
- ⑨ ETC SYSTEM(電子料金収受システム):  
(E     ) (T     ) (C     )  
SYSTEM

- A:** ① Before Christ  
② Light Emitting Diode  
③ Non-Profit Organization

- ④ Non-Governmental Organization
- ⑤ Gross Domestic Product
- ⑥ Un-identified Flying Object
- ⑦ Personal Computer
- ⑧ Automated Teller[Telling] Machine
- ⑨ Electronic Toll Collection System

〔授業余録〕

- ・⑦以外、「何の略語なのか」生徒は知っているようでほとんど知らないことに驚かされる。

**Q. 4** 日本語に合うように、英文中の空欄に適切な前置詞を入れて英文を完成させなさい。

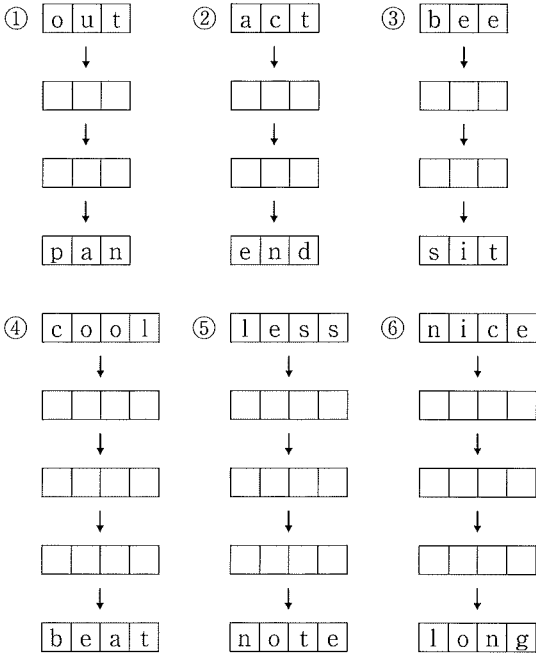
- ① Cheese is made (     ) milk.  
「チーズはミルクからできる」
- ② Milk is made (     ) cheese.  
「ミルクはチーズになる」
- ③ This problem is (     ) me.  
「この問題は私にはわからない」
- ④ I think she will come here (     ) time.  
「定刻に(時間どおりに)」
- ⑤ I think she will come here (     ) time.  
「間に合って(やがて)」
- ⑥ I want to get married (     ) Seiko.  
「私は聖子と結婚したい」
- ⑦ Today's lunch is (     ) me.  
「今日のランチは僕のおごりだ」
- ⑧ She is very much (     ) jazz.  
「彼女はジャズにとっても夢中だ」

- A:** ① from     ② into     ③ above[beyond]  
④ on     ⑤ in     ⑥ to  
⑦ on     ⑧ into

〔授業余録〕

- ・前置詞の定義(名詞や代名詞などの前に置かれて、それらとまとまって形容詞句や副詞句となる)を教える。
- ・短い表現でさまざまな意味を表せることを学ぶ。
- ・④⑤について、「その時間(刻)に乗っかる」から on time で「定刻に」、「時間に埋まる(時間内)」から in time で「間に合って」、と教える。

Q. 5 次は階段パズルである。アルファベットを1字ずつ変えながら単語を作っていく、空欄を埋めなさい。ただし、一度変えたボックスは、再度変更してはいけない。また、変えて作られた途中の単語も、意味をもつことを条件とする。



解答例：

- ① → put → pat      ② → ant → and
- ③ → bet → set      ④ → coal → coat → boat
- ⑤ → loss → lose → nose
- ⑥ → nine → line → lone

[授業余録]

- ・語彙力が試される問題だけに、解答時間が生徒ごとに大きく異なる。
- ・④で coot と書く生徒がいたが、これも正答である。階段パズルでは、教師側が予想しない単語と出会うときがあるのがおもしろい。

Q. 6 英語で十二支を書きなさい。(年明けの3学期の最初の授業で書かせる)

- A : rat[mouse]    ox[bull / cow]    tiger[tigress]  
 rabbit[hare]    dragon            snake  
 horse            sheep              monkey

chicken[cock / rooster / hen]    dog    boar

【授業展開について】

→実際の授業では、Q. 1 と Q. 2 は必ず行う。Q. 3 ~ Q. 6 については、その中の1つか2つを実施している。Q. 6 以外の問題は際限なくあるので、暇を見つけては作成している。

(2) 発音とアクセント ~ Sound (Pronunciation & Accent)

Q. 1 次の英文の下線部と同じ発音をする単語(同音異義語)を書きなさい。

- ① I am a boy.
- ② I would like to see you.
- ③ He knows the secret.
- ④ I write a letter.
- ⑤ One for all, all for one.
- ⑥ Bread is made from flour.
- ⑦ This strawberry is very sweet.
- ⑧ Where there is a will, there is a way.

- A : ① eye            ② wood            ③ nose  
 ④ right[rite]    ⑤ won            ⑥ flower  
 ⑦ suite            ⑧ weigh

Q. 2 次の英単語の最も強く発音する箇所に「´」印をつけなさい。

- ① advice      ② advance      ③ athlete
- ④ display      ⑤ event          ⑥ exit
- ⑦ musician    ⑧ museum      ⑨ success
- ⑩ report      ⑪ balance      ⑫ comment

- A : ① advíce      ② advánce      ③ áthlete  
 ④ displáy      ⑤ evént          ⑥ éxit  
 ⑦ musícian    ⑧ muséum      ⑨ succéss  
 ⑩ repórt      ⑪ bálance      ⑫ cómment

[授業余録]

・言うまでもなく、「ことばを音として伝える」ことは重要であり、発音・アクセントは毎授業で意識すべき教授事項である。発音・アクセントを意識させるため、最初の授業にどのようなハンドアウトを用意したらいいのか試行錯誤した。最終的に、「ことばを音として」認識しやすいように、

「同音異義語」と「日本語化した英単語のアクセント」に限ることにした。

- ・Q.1 では、「例えば橋、端、箸と、日本語に同音異義語があるように、英語にも同音異義語があります」と導入している。初めは、「本当かな？」という反応をする生徒たちも、問題を解く中で、「発音した単語が2つ以上の意味で相手に伝わる」ことに驚きながら、問題を解いていた。ちなみに、'a suite room' は、'a sweet room' とほとんどの生徒が考えていた。
- ・テレビのCMやニュースの中でアクセントが間違っている単語(例 advice, display, musician, success, etc.)を指摘していく。
- ・さらに、'Let's walking.' 'Grow up your dream.' など文法的に誤っている表現が、公に使用されていることを指摘する。そのことは、生徒に英語学習への興味・関心をもたせることになっている。実際、町中で見つけた間違った英語表現(例 first food[誤]→fast food[正])を知らせてくれる生徒もいる。その誤りを正したうえで、他の間違い(スーパーマーケットにて、desert[誤]→dessert[正])を紹介すると、さらに興味を示す。

### (3) 文法と語法 ~ Grammar & Usage

いくつかの文法事項を引き出し、その大切さを教えていく。ただし、時制は必ず扱う。

【例①】英語には12の時制がある。必ず理解し、書けるようにする。

→「日本語を英語に直す」問題の形で、時制を説明していく。高校1年生なら基本時制の現在・過去・未来などの、中学校で学ぶ6つの時制について復習していく。高校2年生なら完了形を中心に、高校3年生なら完了進行形まで扱う。

【例②】動詞を理解することが英語では重要である。動詞にはさまざまな用法がある。例えば、文を作るときの「主語+動詞…」の形。他にも「不定詞」「動名詞」「分詞」などに変化し、いろいろな表現を作り出すこともできる。動詞のさまざまな用法を理解していることは、英語習得の力になる。

→例文をあげて和訳・英訳させたり、動名詞を目的語にとり不定詞を目的語にとらない動詞(例 mind,

enjoy, finish, etc.)をあげさせたりしている。

また、動名詞が入った「ことわざ」の空所補充も行う。

(例)

① 覆水盆に返らず。

It is no use ( ) over spilt milk.

② 蓼食う虫も好き好き。

There is no ( ) for tastes.

③ 百聞は一見に如かず。

Seeing is ( ) .

④ 学問に王道なし。

There is no royal road to ( ) .

A : ① crying ② accounting ③ believing

④ learning

[授業余録]

- ・「英語にはいくつの時制がありますか」と生徒に問いかける。すぐに「12」と答えが返ってくることは、まずない。

### (4) 知は力なり ~ Knowledge is power!

英文を読み取る力は(1)(2)(3)プラス「知」である。「知的好奇心」が豊かな高校時代に、「知」を身につける取り組み(「本や新聞を読む」「疑問に感じたことを調べる」「家族や友人、先生と語り合う」…)を日ごろから心がけ、「知識」を得るようにしたい。

[授業余録]

- ・授業のまとめとして、「知は力なり」を必ず生徒に話す。英語学習の4領域についてはよく言われることだが、自分の中に「相手に話す」「相手と語り合う」知識や世界観がなければ、ことばが目指すゴールまでは決してたどり着けない。英語学習の鍵は、'Background Knowledge'である。

### 3. おわりに

今回提示したハンドアウトは、もともと英語学習導入のために作成しましたが、現在では、導入以外の授業でも使用しています。

以下で示す生徒の感想から、楽しんで学ぶ中で、「語学(英語)を学ぶ力とは何か」を理解させることができたのではと思います。

## 〔生徒の感想〕

- ・初めて聞く単語がたくさん出てきましたが、ゲーム感覚で楽しく覚えることができました。
- ・単語を書き出すゲームを行うことで、忘れかけていた単語を思い出せるからよいと思いました。
- ・楽しく単語を知ることができた。特に、空欄に同じアルファベットを入れるゲームが楽しかった。
- ・1時間の中で、ゲームから文法・演習まで、いろいろなことができてよかったです。
- ・みんなと競争したことで、頭の回転が速くなりました。また、cocoa「ココア」、dodo「時代遅れ」など、他の授業では習わない単語も覚えられました。
- ・文法のポイントを、的確に繰り返し指摘してもらい、理解できました。

また、私はこのハンドアウトを発展させてきました。「語彙」では、単語を英語で説明するペアワークや体の部位が入った表現(例 give me a hand, have a big mouth, etc.)のクイズを、「音声」では、よく間違える発音の練習(例 wool—hood, abroad—broad, wicked—naked, etc.)やビートルズの曲を聴いて歌詞を書き取らせるゲームを、そして、「文法」では、生徒が授業・考査などで間違えた熟語・連語のクイズを行っています。このように、生徒の興味・関心に沿って「語彙」「音声」「文法」の力を伸ばす授業を実践しています。

知力についても授業内で意識しています。英文読解の授業では、単に英文を解説するだけでなく、その背景知識についても説明します。例えば、生徒になじみのない「東欧の民族問題」を扱った題材では、戦後の世界情勢、東西冷戦、ベルリンの壁崩壊、ソ連崩壊と順を追って説明しました。そうすることで、最初はなかなか理解できていなかった生徒も、内容について深く考えられるようになりました。

「英語の力」は、決して、一朝一夕で獲得できるものではありません。繰り返しになりますが、4つの項目(語彙、音声、語法・文法、知力)を具体的な方法でコツコツと取り組んだときに獲得できるものなのです。

おわりに、私自身が、銘記している「教授者としてのあり方」を述べたいと思います。

「生徒を『英語学習にいざなう』ために、授業が楽しく・わかる教材を作り、そして教授法を養うこと、さらに、学ぶ教材の世界観(=背景知識)を生徒に提示できるまでに、『総合人間力(=幅広い知識)』をいろいろな機会を利用して、日々養うことが肝要である。」

## 参考文献

- 開隆堂出版(2011)『中学で学ぶ英単語』  
小西友七・南出康世 編(2006)『ジーニアス英和辞典 第4版』大修館書店  
堀江研二(2012)『『中英』によるつまずきの克服』  
『新英語教育』518号 pp.13-15 三友社出版  
マーク・ピーターセン(1988)『日本人の英語』岩波書店

(帝京大学可児高等学校講師)